

5 【地域や時代背景】

10 こだま青年会議所 50 周年から社会が大きく変化し、近年の社会情勢により、メンバーは半数以上の変動がありました。先輩諸兄姉が築き上げてきた「設営のこだま」を体現する機会が少なくなり、現在ではその言葉を知るメンバーが少なくなっております。そこで本年度は活力溢れるこだま青年会議所へと繋げるため過去の伝統的な設営の形を伝えるだけでなく、委員会として新しい形の設営を創造し、メンバーに伝えます。

【背景から事業を行う目的】

15 社会情勢の影響でコロナ前のような対外事業が行えない期間があり、準備が至らない事が多々ありました。そこで、過去の私が経験した事を昇華し、「設営のこだま」を伝え、外部から評価をいただきメンバーの成長やこだま青年会議所の誇りへと繋げます。私が捉える設営は細かい動作や心遣いといった所作を徹底的に行うものと考え、はきはきとした行動で、外部から生き活きと青年経済人として若者らしい活動をしている姿の事と捉えます。

【事業の内容】

20 1 月例会では組織披露及び名刺交換会を行います。来賓や OBOG とこだま青年会議所メンバーとの関係性が希薄になっておりましたが、3 年振りに名刺交換会を行う事で、現役メンバーとの繋がりが構築され、人となりを感じいただき本年度の運動にご支援を賜れます。また、入会歴の浅いメンバーには役割の中で中心的存在になれるような役割を任せ、来賓・OBOG との交流を促進し、まちづくり運動へ積極的に参画してもらえらる機会とします。

25 9 月例会では 55 周年式典を開催します。現在のメンバーが活力ある運動している姿勢を見せることにより、これからの JC 運動がより勢いのあるものにするため未来に向けた指針を発表する場とします。

30 12 月例会では卒業式を行います。この事業では 2 例会で経験した事を集大成とします。本年度入会のメンバーを中心に事業構築をします。入会メンバーには、設営を通じて卒業生を思いやることで、会の魅力を感じていただき、卒業生の想いのこもったスピーチを通じて、青年会議所の魅力を感じていただきます。そして、短い期間ですが、当日を通じて卒業生とかけがえのない思い出になるような場とします。

35 委員会として理事会等のオンライン会議をする際は発言多くいただけるよう、システムを構築し、リアル環境に繋がる設営を心掛けます。また定款に基づきメンバーからいただいた大切な会費を適切に資産管理します。

【事業の結果】

1年を通し、新しい形の「設営のこだま」を体現する事で、役割をしっかりと伝え、メンバー1人1人に必要とされている事を認識いただき事業に携わる機会を創ります。自発的に参画する事で例会の出席率の向上を図れるだけでなく、運動が大きな波紋となり、地域を創る団体としてのブランド価値を高めると確信します。

3つの事業を通じて後のJC運動に尽力するため、私自身が先頭に立って次年度以降のすべての事業に対しても密に関わる気概を持って行動して参ります。事業で伝える事でその想いは60周年へと受け継がれると確信します。

【会員拡大について】

持続可能な会にするため担当副理事長主導の基、4名の拡大をします。委員会として諸先輩方からの情報や地域活動に精通している企業や団体を通じてこだま青年会議所の情報にはない候補者を探しつつ、メンバーと共有しながら、拡大に繋げて参る所存です。

【事業計画】

1. 1月例会の開催
2. 9月例会の開催
3. 12月例会の開催
4. 会員の拡大
5. オープン委員会の開催

【事業予算】

790,000 円